

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・これだけ暑さが厳しいと、秋冬は涼しさ・寒さをより感じて、防寒着が良く売れる。
		百貨店（販売促進担当）	・アパレルについては、現状が底のように思っているのが、今後良くなる。また飲食と雑貨についても、もう少し様子を見なくてはならないが、徐々に上向いてくるのではないかと。
		百貨店（売場担当）	・9月、10月と大きなイベントの予定がある。毎年好評であり、今年は趣向を凝らしているため、売上が増加する。
		家電量販店（予算担当）	・昨年の冬は非常な暖冬で、暖房機関連が不調で終わっている。今年が平年並みに戻るとすれば、ある程度の底上げが期待できる。
		その他小売（営業担当）	・売上等から今月は景気の回復が実感でき、これはある程度は継続する。
		旅行代理店（営業担当）	・選挙で自民党が大敗したが、企業にその影響はでていない。各業種ともそこそこ忙しくなってきているので、旅行業も良い影響が出る。
		タクシー運転手	・秋の行楽シーズンを迎え、世界遺産に登録された石見銀山、松江市内等々、各旅行会社からの問い合わせは多数入っている。これから9月、10月と開府400年の松江市等イベントもあるので、売上もそれに伴って増加してくる。
		通信会社（販売企画担当）	・今後の主力となる新商品の発売を11月から予定しており、市場が活性化される。
	テーマパーク（広報担当）	・県内で大きなイベントがあり、波及効果が期待できる。	
	変わらない	一般小売店〔茶〕（経営者）	・先の見えない状況が続いているが、県外の景気の良さそうな場所の催事等に参加し、当社の特性を生かした商品群と販売方法で積極的に打って出る。
		百貨店（営業担当）	・最近気温が不安定で、またこの冬は暖冬と予想されており、前年好調だった非ウールコートの売上をニットアウターでどこまでカバーできるか懸念される。
		百貨店（売場担当）	・昨年同様に残暑が10月下旬まで残るようなことが予想され、ファッション関連においても、秋物が全く売れないままに冬物の立ち上りも苦戦することが予想される。周囲の商店街の閉店も止まらず、商業地域として見ても良くなる要素が見当たらない。
		百貨店（売場担当）	・残暑のため秋物の立ち上がりが鈍く、売上を増加させる対策がない。気温が下がらない状況が続けば9月の前半は苦戦が予測される。特にブーツの動きが不透明で、売上ははまだ前年比80%で推移しており、急に上がると思えない。
		百貨店（購買担当）	・暑さのせいで秋物商材が売れないが、そのなかでも、ブーツ・財布等は、昨年より早く動きが良くなっている。3か月前に暖冬でなければ、この動きは継続する。ただし、ヤング部門では今ごろ秋物が動いているはずだが、目新しい素材・デザイン等もなく厳しい状態が続く。
スーパー（店長）		・いよいよディスカウント店のオープンを迎え、価格競争がより激しくなることは必至で、前年の来客数の確保が困難になり、同時に利益確保も大変な状況が続く。	
	スーパー（店長）	・ここ半年間ずっと前年よりやや良い状態が続いている。今後もこの状況は変わらない。	
	スーパー（店長）	・秋口になり、油関連、特に食用油の商材の値上がりがある。そのため、一品単価の上昇があると思われるが、反対に買上点数が減少してほぼ前年並みの売上になり、変わらない状況が続く。	
	スーパー（総務担当）	・平均単価も前年並み、客単価もやっと前年並みまで戻って来た感があり、2～3か月は大きく悪くなることはない。	
	スーパー（管理担当）	・価格強化販促を組んで来客数の確保はできているものの、必要な物だけ購入するので売上点数・客単価の増加がみられない。年末だが、クリスマスが週末からとなるので大型店舗へ客は流れると思われる、売上増加は見込めない。	
	コンビニ（エリア担当）	・今年に入り、前年比3～5%の来客数の伸びで推移している。これからもこの状況が続く。	
	コンビニ（エリア担当）	・卸については大型スーパー・コンビニエンスストアの出店が何件か入っているため、それに伴い、引き続きある程度の数字はとれる。下半期に入り客の流れも良い。	

	コンビニ（エリア担当）	・今月は猛暑で、飲料やアイスクリームは前年並みの売上があるが、動く商品がごく限られていて、全体的には客の買い控えが見受けられる。9月以降に関しても、現状の売上を伸ばすのは難しい。
	家電量販店（店長）	・厳しい状況が続くと思われる。切羽詰まった購入はあるが、衝動的な買物はない。
	乗用車販売店（サービス担当）	・客の動きも鈍く、コンパクトな新型車の投入も無く、苦しい戦いが続く。
	自動車備品販売店（経営者）	・来客数の落ち込みはあるが、接客して販売する商品の動きは堅調に推移しているので、ガソリン高騰が落ち着けば若干の回復は見込める。
	自動車備品販売店（店長）	・来客数・客単価共に少なく、これからも改善の傾向が見受けられない。
	その他専門店〔カメラ〕（店長）	・関東圏や中部圏など一部の地域は良いが、それ以外はそんなに変わらない。当地では、変わるような好材料が今のところ存在しない。
	高級レストラン（スタッフ）	・今後の予約状況みても、昨年と同じような状況であり、あまり変化はない。
	一般レストラン（経営者）	・売上は、今月は全体的には前年比100%をクリアしているが、お盆の時期が80%台と苦戦した。前半と後半で何とか100%にまでもっていった。このような状態がもう少し続く。
	その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・新規顧客の獲得、リピーターの増大を図るため客単価のアップは難しいが、売上の上昇基調は変わらないと考えている。
	都市型ホテル（従業員）	・宿泊の予約状況が、9月は予想を下回っているが、10、11月は団体予約の問い合わせが増加しており、どちらともいえない。
	都市型ホテル（スタッフ）	・秋にはスポーツ団体の予約が宿泊・宴会・レストランにかなり入っているが、どれも客単価が低いので増収は見込めず、前年並みである。
	都市型ホテル（総務担当）	・全国大会等の受注はあるものの、全体としての受注状況は動きとしてはまだまだである。原材料あるいは重油の高騰により、ホテル側としてはマイナス要因が多い。全体として景気回復と言われても実感はなく、どちらかと言えばマイナス傾向にあるのではないが。
	タクシー運転手	・8月には、貸切バスが少し動いていたようだが、タクシーまでこの効果が及ぶにはもう少し時間が掛かる。
	タクシー運転手	・10月からの医療介護の法律の変更などで、医療施設の客が半減する。また、2～3か月先には運賃値上げでタクシー運転手の年収は増えると思っていたが、現状は値上げができる状況ではなく、売上は伸び悩む。
	通信会社（総務担当）	・客の大手事業者のサービスへの乗換え等により、厳しい状況が続く。
	テーマパーク（財務担当）	・秋の観光シーズンとなり、さまざまなイベントを企画しており、それによりある程度の来客数の増加は見込めるが、利益がどの程度上積みできるかは想定しづらいため、全体としては現在とあまり変わらない。
	テーマパーク（業務担当）	秋から冬にかけては大規模イベントを予定しており、また来客数が増加する季節となるが、例年以上の来客数を獲得するには相当の努力が必要であり、やや厳しい状況には変わりはない。
	設計事務所（経営者）	・建築基準法が改正され、建築物価が高騰してきたことから、仕事の手間が増え、思うように仕事量を増やすことができないので、この状態が続く。
	設計事務所（経営者）	・新築、リフォームを含め設計事務所への相談件数も以前と比べて減っている。ここしばらく客の動きも期待できない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・商店街を取り巻く環境もよくない。既存店舗の撤退が決まり店舗数減少に歯止めが効かない状況が続く。
	一般小売店〔印章〕（営業担当）	・一部に中国景気に影響されたと思われる大手鉄鋼関連会社などは大変景気が良いと聞かすが、一般的には、最近法人を設立するというような動きはなく、また個人客の来客数も減少していることから、これから先少し厳しくなる。
	百貨店（営業担当）	・近くに競合店が出店する。
	百貨店（販売促進担当）	・郊外ショッピングセンターの増床オープンが間近になってくるにつれ、市内商店街からの出店、また当店に出店している店舗の出店等も明らかになってきた。商圈人口に変化が無い状況の中、ますます競合は厳しくなる。

	百貨店（販売担当）	・8月同様に、ここ数か月は新規商業施設に客の動きが流れ、集客アップは見込めない。
	スーパー（店長）	・競合店が2店舗出店する予定であり、その影響が懸念される。
	スーパー（店長）	・現在JR駅構内及び駅前周辺が改装工事をしており、商圈としての集客機能自体が落ち込んでいる。商圈としての集客体制が整うここ数か月間は景気の上昇は難しい。
	スーパー（販売担当）	・新商品の入替えのたびに、値上がりを感じる。秋になってもこの傾向が続くのでやや悪くなる。
	スーパー（財務担当）	・仕入原価の引上げ、天候による相場の高騰等も予測され、このため1人当たり買上点数が伸びない。
	コンビニ（エリア担当）	・今月は割と良かったが、客は本当に必要なものしか購入しないという財布のひもの固さは、今後も決して緩むことはない。
	コンビニ（エリア担当）	・競合店の出店・他業種の出店により、じわりと売上が前年を割り続けている。今後、更にこの動きが加速し、厳しい状況となってくる。
	衣料品専門店（地域ブロック長）	・残暑が長引き、秋物の立ち上がりが悪くなっている。今後も衣料品の動きが良くなるとは考えにくく、売上は低迷する。
	家電量販店（店長）	・年金問題など、将来の生活設計の不安から、高齢者の消費が少し落ちてきており、この傾向は続く。
	乗用車販売店（統括）	・税金の負担とともに、ガソリンの値上げやそのほかの物価の上昇により、消費に慎重な傾向が強くなる。
	住関連専門店（広告企画担当）	・多少高くても良い物が欲しい客が少なくなるため、売上が増えず、今後も厳しい状況が続く。
	一般レストラン（店長）	・7～8月は来客数がゆるやかな動きで推移した。平常月になると若干来客数が前年比で減少すると思われる。
	観光型ホテル（経理総務担当）	・10～11月の一般宴会、婚礼宴会の受注状況が、前年を大きく下回っており、今後、大幅に伸びることは難しい。前年実施された企業の大型宴会が今年は入っていないため、厳しい状況が続く。
	設計事務所（経営者）	・受注の確保が量的に難しく、厳しい状態が続く。
	住宅販売会社（従業員）	・展示場への来客数が減少し、また客の購買意識においても厳しい状況がでているため、今後の受注についても厳しい。
	悪くなる	その他専門店〔書籍〕（従業員）
		都市型ホテル（経営者）
		美容室（経営者）
		設計事務所（経営者）
企業動向関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）
	やや良くなる	輸送用機械器具製造業（経理担当）
		輸送業（統括）
		その他サービス業〔清掃具レンタル〕（情報管理担当）
変わらない		食料品製造業（総務担当）
		化学工業（総務担当）
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）
		鉄鋼業（総務担当）
		鉄鋼業（総務担当）

	金属製品製造業（総務担当）	・仕事量は多くフル生産を継続するが、原材料価格の値上がりが続いている。10月以降の製品価格に値上げ分を転嫁すべく、得意先との価格交渉が必要となってくる。それにより業績への影響は避けられないが、ある程度は転嫁できる。	
	電気機械器具製造業（総務担当）	・携帯関連が秋モデルの投入が始まり、受注も堅調であると予想する。自動車関連も引き続きフル操業の受注が入っており、当面好調は変わらない。	
	電気機械器具製造業（広報担当）	・受注が現在と同水準で推移する。	
	建設業（経営者）	・参院選の大敗で、やっと地方の疲弊対策という声が出ている一方、無駄をなくすという大義名分で、建設業はますます苦しくなっている。まだ当分はこの苦しい状況が続く。	
	通信業（営業企画担当）	・情報通信サービスの動向は個人（コンシューマ）向け主体の廉価ブロードバンド商品が順調に伸びているが、企業の利用もかなりの率を占め、高品質・高価格商品衰退に拍車を掛けている。この傾向は当面変わりそうにない。	
	金融業（営業担当）	・若者中心に地域興しの動きはある。ただしお金をかけずにやろうとしているので、景気のでこ入れという感じはなく、変わらない。	
	金融業（業界情報担当）	・米国経済の鈍化懸念はあるが、欧州・アジア圏の好調から世界景気はおおむね良好が続くとみられ、当面は高水準の受注が続く見込みである。	
	会計事務所（職員）	・従来は中小零細企業がほとんどだった市場や受注先にまで大手資本が参入してきて、中小零細の事業者はあらゆる面で圧迫され、なかには撤退を検討中のところもあり、この傾向はいよいよ強くなる。	
	コピーサービス業（管理担当）	・この業界の必要性は乏しいのではないかとさえ思ってくるほどで、良くなる見込みは今のところ無い。	
やや悪くなる	一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内・海外共に自社製品の売上が減少傾向にあり、また、業界全体の国内の総需要をみても前年比で約1割減少しており、今後回復に向けての好転材料がない。	
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注量・生産高共に伸びない状態で、石油をはじめとする原材料価格の値上がりや、金利負担、あるいは社会保険料の負担増など、コストアップの要因が多く厳しい状況であり、先行きが懸念される。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・原油の値上げの影響が大きく、当社においても原材料の値上げの要請が後を絶たない。この状況は原油高が続く限り続く。	
	通信業（部門長）	・自動車関連の製造業は好調ようであるが、国外に依存しており、国内の自動車の販売は低迷している。また、ガソリン代の高騰で物流コストがアップしており、通信関係で新たな投資に期待が出来ない状況が続く。	
	悪くなる	-	-
	良くなる	-	-
雇用関連	やや良くなる	求人情報誌製作会社（支社長）	・各企業の人手不足は解消していない。その関係で、求人のニーズがもうしばらくは強い。
		求人情報誌製作会社（担当者）	・秋期に合同企業説明会を開催して欲しい旨の声が多く寄せられている。
		職業安定所（雇用開発担当）	・全体として平成19年4月からの求人関係の数値は、右肩上がりの状況を呈しており、特別マイナス評価するような要因が見当たらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・人材が確保できれば、抱えている案件（ビジネス）に着手できる企業が多く、その要請はまだ強い。
変わらない		人材派遣会社（支店長）	・企業に先々明るい見通しがなく、今後は現状維持を図る傾向が強い。
		人材派遣会社（担当者）	・求人数、求職者数共にあまり将来に向けての動きが感じられない。
		職業安定所（職員）	・有効求職者は横ばいからやや減少傾向で推移している。相変わらず、求人と求職のミスマッチという問題もあることから、滞留求職者はこれからも多く、今後も大きな変化はない。
		職業安定所（職員）	・非正規求人や、パート求人が増加し続けている。この状況では求職者の所得が低く抑えられ、個人消費が上昇しにくく、景気が上向きとなることは考えにくい。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・学生の採用結果報告から見ると、昨年とあまり変わらないが、企業を回ってみると、人手の未充足感を感じられる。

やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・正社員の採用環境は引き続き良い状況が続くと思われるため、派遣会社に対しては更なるサービスの向上が必要となり、利益を圧迫するようになる。
悪くなる	-	-